

教科(科目)	家庭	総時数	17.5時間	学年(コース)	3学年
使用教科書	東京書籍『新しい技術・家庭 家庭分野』 自立と共生を目指して				
副教材等	明治図書『技術家庭総合ノート 家庭分野』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

<p>グラデュエーション・ポリシー</p>	<p>①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に付け、グローバル（地域的・地球的）な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。</p> <p>②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。</p> <p>③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー</p>	<p>①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。</p> <p>②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。</p> <p>③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。</p> <p>④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。</p> <p>⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。</p>

2 学習目標

実践的・体験的な学習活動とおして、一人の生活者としての基礎的な知識と技術を身に付けさせる。また、自分の家庭生活や地域の生活に深い関心をもち、課題をもって生活を改善充実しようとする能力と、積極的な態度を育てる。

3 指導の重点

- ①消費生活では、モノ・サービスの適切な選択・購入・活用ができるようにする。
- ②住生活では、家族が住まう空間としての住居の機能、安全で快適な室内環境の整え方を知る。
- ③環境では、自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した生活を送る意識を高める。

4 評価の観点の趣旨

(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	衣食住や家族の生活などを見直し、課題を見つけ、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫している。	衣食住や家族の生活などに関心をもち、これからの家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。		
(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・ワークノートの提出 ・作品の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの内容 ・ペーパーテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークノートの提出 ・作品の評価
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：努力を要する」で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	領域	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法	
4	10	私たちの消費生活	C (1)	消費者としての自覚	さまざまな販売方法、支払方法があることを知る。	3	授業の取組
5	11		C (2)	消費者の権利と責任	消費者問題と消費者保護について知る。	3	授業の取組 視聴覚学習
6	12	環境	C(2)	持続可能な社会	環境に配慮した生活について学ぶ。	2	授業の取組
7	1	私たちの住生活	B (6)	住まいの役割	住まいの役割と日本特有の住まい方を知る。	2	授業の取組 視聴覚学習
8	2		B(6)	住まいの安全	安全で快適な住まいについて理解する。	3	授業の取組
9	3	会食	B(3)		会食の計画を立て、実践する。	4.5	定期テスト プリント ワークノート

計 17.5 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

・視聴覚学習プリント ・調理実習プリント ・ワークノート

8 担当者からの一言

3年生では「消費生活」「環境」「住生活」の分野を学びます。前期課程の最終学年となりました。自分の家庭生活について考え、自立した生活に向けて取り組んでいきましょう。

(担当：倉茂)